

# 6学年 社会科 授業計画

広島市立 石内小学校

## ◆ 教科の目標

- (1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を育てるようにする。
- (2) 日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。
- (3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

## ◆ 評価の観点

- ・我が国の歴史と政治及び国際社会における我が国の役割に関心をもち、それを意欲的に調べ、我が国の歴史や伝統を大切にし国を愛する心情をもつとともに、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることの自覚をもとうとする。
- ・我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象から学習問題を見い出して追求し、社会的事象の意味についてより広い視野から思考・判断したことを、適切に表現する。
- ・我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。
- ・国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解している。

## ◆ 評価の方法

学習態度 行動観察 発言 発表 作品 ノート テスト

## ◆ 学期ごとの学習内容と学習のポイント

	学習すること	学習のポイント
前期	○ 日本の歴史 1 縄文のむらから 古墳のくにへ	・縄文のむらが、アジア大陸からの稲作の伝播を経て、米づくりのむらに変化し、大きな力をもつ豪族が現れて、くにへ発展し、やがて大和朝廷によって国土が統一されていく様子をとらえる。
	2 天皇中心の国づくり	・聖徳太子の政治、大化の改新、聖武天皇の大仏づくりを中心に調べ、このころ天皇を中心とした政治が確立したことをとらえる。貴族が力をもち、日本風の文化が起こったことをとらえる。
	3 武士の世の中へ	平氏を倒した源頼朝が、ご恩と奉公の結びつきによって、武士のための政治を行う、鎌倉幕府をつくったことをとらえる。
	4 今に伝わる室町文化	・室町に幕府があったところの建物や絵画、茶の湯、生け花など、民衆の中から生まれた文化の様子をとらえる。
	5 戦国の世から江戸の世へ	・織田信長、豊臣秀吉、徳川家康のそれぞれが、全国統一に果たした役割を調べ、全国統一の様子をとらえる。 ・徳川家光の大名統制、農民支配、鎖国政策などによって安定した社会をもたらした江戸幕府の政治の様子をとらえる。
	6 江戸の文化と新しい学問	・社会の安定とともに、庶民の間に歌舞伎や浮世絵などが広まったことや、蘭学や国学といった新しい学問が起こったこと、それらが社会に与えた影響などをとらえる。
	7 明治の国づくりを つくりあげた人々	・大久保利通と富国強兵、板垣退助と自由民権運動、伊藤博文と大日本帝国憲法などから、明治の諸改革の様子をとらえる。
後期	8 世界に歩み出した日本	・陸奥宗光や小村寿太郎の働き、日清・日露の二つの戦争での勝利によって、国力を向上・充実させて日本は世界に歩みだしたことや、不平等条約の改正に成功していった様子をとらえる。
	9 長く続いた戦争と 人々のくらし	・日中戦争からアジア・太平洋戦争までに、日本は、中国をはじめとするアジアの国々に多大な損害を与えたこと、日本国民も大きな被害を受けたことをとらえる。
	10 新しい日本、 平和な日本へ	・戦後の諸改革やオリンピックの開催を通して、日本国民が民主的な国として再出発したことや、国民生活が安定・向上するとともに、国際社会において重要な役割を果たすようになってきたことをとらえる。
	○ わたしたちの生活と政治 1 わたしたちの願いを 実現する政治 2 わたしたちのくらしと 日本国憲法	・日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方を理解できるようにし、平和を願う日本人として、世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。
	○ 世界の中の日本 1 日本とつながりの深い国々 2 世界の未来と日本の役割	・結びつきを深める世界の中で、世界の人々と相互に理解を深め合い、平和な国際社会の実現を目指して、我が国が国際社会の中で重要な働きを果たしていることを考え、世界の国々の人々と共に生きていく大切さを自覚する。